

基本的な生活習慣の定着

親子で基本的な生活習慣を
身に付ける取組の促進

- ・親子で目標を決めて、日々取り組む実践を促します。
- ・子どもの生活リズム向上を図るよう意識啓発を推進します。



キャンペーンキャラクター
ファミリン

家族がふれあう機会づくり

家族がふれあう
機会づくりの促進

- ・「家庭の日」に活用できる県内施設のイベントや伝統行事等の情報提供をします。
- ・協賛団体等における協賛事業の推進を図ります。



お手伝いの定着

お手伝いを積極的に行う
取組の促進

- ・子どもの成長に応じて、お手伝いや役割を分担する実践を促します。
- ・家族の役に立った喜びや責任を果たした達成感を味わえる実践を促します。



父親の家庭教育参加

父親の家庭教育参加の促進

- ・おやじの会等への支援を通して、父親の家庭教育参加を促します。
- ・企業等における学習機会を提供し、父親の家庭教育参加への意欲を高めます。



家庭の元気応援キャンペーン

70-70 早起早起き朝ごはん 車を讀んで外遊び みんな仲良く今日も元気

<http://www.pref.yamaguchi.jp/cms/a50400/kateikyoku/kateinogenki>



お問い合わせ

山口県地域家庭教育推進協議会事務局
山口市瀬町1-1 教育庁社会教育・文化財課内

TEL 083-933-4661

FAX 083-933-4669



家庭教育支援 やまぐち

山口県では県民総参加による教育力の向上に努めています。



よりんちゃんのおりがみ屋（山口県健康センター）

山口県地域家庭教育推進協議会 山口県教育委員会



次代を担う自立した子どもたちの育成

家庭の教育力向上が求められています

社会的背景

- 少子化・核家族化・都市化・情報化等、家庭を取り巻く社会の変化
- 地域における地縁的なつながりや人間関係の希薄化等

課題

- 身近な相談相手がないなど、子育てに孤立傾向な親への支援
- 子どもの育て方が分からないなど、子育てに対する不安の解消
- 仕事と家庭生活の両立などからくる、子育てへの負担感の解消

家庭

家庭教育が果たす役割

- 生活のために必要な習慣の習得
- 自立心の育成
- 心身の調和的発達

進めていきたい具体的な取組内容

- 親子で基本的な生活習慣を身に付ける取組の促進
- 家族がふれあう機会づくりの促進
- お手伝いを積極的に行う取組の促進
- 父親の家庭教育参加の促進



保育園・幼稚園 学校

- 家庭との連携促進
自由参観日の開催や保護者を対象とした相談体制の充実等
- 児童・生徒を対象とした子育てに関する学習活動の促進
乳幼児とのふれあい活動やその親と語る機会等
- 学社融合への取組促進
参観日等の機会を活用した子育て講座の開催等

行政

- 意識啓発の促進や情報提供
テレビやホームページ等、広報誌の活用
- 多様な学習機会の提供
公民館や学校を利用した講座の他、出前講座の開催やホームページの活用等
- 相談体制、支援体制の整備
他部局と連携した支援体制をコーディネートできる人の充実
メディアを活用した情報提供や座の他、出前講座の開催やホームや支援者の養成
づくりや家庭教育支援への取組材の養成

地域社会 企業

- 親・子どもの居場所づくりの促進
公民館を活用した子育てサロンの開催や子育てサークルのネットワークづくり
放課後子ども教室の充実や子ども会活動等、各種団体の活性化
- 企業等における子育てしやすい環境づくり
家庭教育充実に向けたワークライフバランスへの取組
短時間就業制度等、諸制度の整備
- 企業等における青少年健全育成に向けた社会貢献活動の促進

県民みんなが進め よう家庭教育支援

家庭教育支援を進めていく手立て

きめ細かな家庭教育支援の展開

- 必要に応じて訪問支援を行うなど、きめ細かな情報提供や相談対応
- 親の学習活動が促進される講座等を提案する創意工夫
- 身近な地域で支援を受けることができる仕組みづくり
- 団塊世代や高齢者による支援活動の展開

地域ぐるみの家庭教育支援

- 家庭教育や子育て支援のセンター機能をもつ機関の支援機能を強化
- 家庭では対応できない課題について、地域全体で解決を進めていく取組
- 父親の家庭教育への積極的な参加を図るための取組
- 中高生が幼児やその親とふれあい、子育ての楽しさや生命、家族の大切さを理解する機会の提供

家庭教育支援を進めていくための視点

共生 親と子どもの主体的な「育ち合い」

親も子育てを通して、親として成長していくものです。共に育ち合うという視点に立った支援が必要です。

共同 地域全体での子

子育ては、家庭だけでなく地域全体で支えていくことが大切です。子どもが「親の子」「家族の子」「地域の子」「社会の子」として育てるとともに、「地

育での「支え合い」

く地域全体のものとして子どもが「親の子」「家族の子」「地域の子」「社会の子」として育てるとともに、「地

共生 多様性の認識の「分ち合い」

家庭教育には多様なスタイルがあり、それぞれを尊重しながら支援していくことが大切です。





県内の有識者や家庭教育支援関係者の方に聞きました。

妊娠期～乳幼児期 家庭教育はもう始まっています



支援者からの“少しの後押し”を

「私は人から大切にされている」と思えた体験が、その人を幸せにし、その後の人生を変えることがあります。愛を注がれた人は、今度は、同じ愛を人に与えようとするのかもしれない。家族のなかで、あるいは地域社会の方々とともに育まれた温かな人間関係は、これから生まれてくる子どもへの愛情にかたちを変えることでしょ。家庭教育の素地は、子どもが生まれる前につくられ始めるといえます。

近年、家庭や地域における教育力が低下しつつあるといわれています。同時に、急激な情報化社会も到来しました。子どもを産み、育てようとする親御さんにとって、身近に相談相手がいない、あるいは育児雑誌などからの大量の情報が翻弄されるといった状況などから、育児不安が生じております。でも、周囲の支援者からの“少しの後押し”があれば、必要以上に悩まずに子育てができるようになる親御さんの数も、決して少なくないと思われます。親は皆、日々の子育てを通して少しずつ経験を積み、知識も得ることで、賢くなっていきます。一時に「理想的な親」に変身する人はいません。支援者からの“少しの後押し”の継続が、親御さんを変え、子どもへの愛情を育みます。

山口大学教育学部 教授 松田 信夫



妊娠期から夫婦共同での子育てが大事 — 親としての自覚と夫婦共同の子育て —

親の「自覚」は突如、芽生えるわけではありません。妊娠期には、無事に産まれてくるだろうか等と常に案じ、胎児に悪影響が及ぶことは避けようとし、そんな日々から我が子への慈しみを感じ、徐々に「自覚」を養っていくものだと思います。父親は、母親のおなかに手を触れながら様子を聞くなど、一見、夫婦間のやりとりでしかないように思えても、すでに共同の子育てが始まっています。母親は、ひとりで抱え込まず、子どもに関しての報告や相談をすることを習慣づけておくことで、出産後も父親の協力を得やすい関係を築いていけるのではないのでしょうか。

山口県地域活動連絡協議会 副会長 津田 ます子



みんな仲間です — 一人で悩まない子育てについて —

胎内に宿った生命がやがて産声をあげた時から、この世の中で少し先輩の私たちと一緒に生きてゆく仲間になったのだと思います。小さな命の誕生は、今までの自分達が経験した事のない世界を家族の中に運んできます。喜びや不安、辛い事が起こるのはあたりまえです。押し寄せてくる戸惑いを解決するためには周りを見渡してみましょう。同じ思いをしている仲間や、地域の方との出会いとその存

在は行く手を示す喜びにもなります。子どもと共に生きる「町」と「人」に興味を持ち、はつらつとした生活をしてみましょう。生きる力はそこから湧いてきます。

子育てサークル わこの会 会長 上原 幸枝



健やかな育ちを支える乳幼児期 — 基本的生活習慣の大切さについて —

現代の子育ては、大人社会の夜更かしや、メディアとの長時間接触、単に食べるだけの食事など様々な影響を受けています。

毎日の積み重ねが子どもの心と身体を育てていくのですから、基本的生活習慣が大切になります。8時に就寝し、6時に起床、栄養バランスのとれた食事をとる子どもは、生き生きと遊び、心も安定しています。テレビやビデオに子守を任せず、外へ出て五感を刺激することや、人との関わりの中で育つことも大切でしょう。乳幼児期の基本的生活習慣がその後の児童期の健康な成長を支えます。

子育て交流サロンのほら 川野 都



“子どもを守る”のはおとなの役割 — 小児科医から —

子どもたちの周りには、彼らの「健康」を奪ってしまう心配(病気や事故や環境の乱れなど)がたくさんあります。も

ちろん年齢に関係なく存在はしますが、自分で危険を察知して回避することのできない乳幼児を守る役割は「おとな」が担わなければなりません。

●予防接種(ワクチン)

公費の負担の有無にかかわらず積極的に受けましょう!

●事故

家庭内でも戸外でも「死」に至る事故は枚挙にいとまがありません! <やけど・誤飲・転落・溺水・交通事故など>しかし、すべての事故は予防できるので、家族・園・地域ごとに「キケン・チェック」を定期的に行いましょう!

●受動喫煙

おとなの吸っているタバコの煙を吸い込む「受動喫煙」は、子どもたちの「成長と発達」に危害を及ぼすことが証明されています。公の場所では注意が喚起されていますので、気づくことが多いかも知れませんが、家や車の中ではガードが低くなりがちです。「スマセシ」を心がけましょう!

たはらクリニック 院長 田原 卓浩



「共に育つ」という視点に立った連携を — 保育園・幼稚園と家庭の連携について —

家庭と保育園・幼稚園がよきパートナーシップを発揮させながら、共に学び、共に育つという立場で連携を図ることが大事です。

また、家庭の父親力をもっと活かすために体験活動の機会や父親(パパ)の会を設けるなどして、父親の参加を促す工夫が必要です。

さらに、地域との交流体験の場を設け、例えば、年長者の子育ての知恵や地域文化について学ぶことが大切です。

なお、連携の推進にあたっては、地域の子育て支援グループや関係諸団体あるいは人材などの情報収集やネットワークづくりに努めることが大切と思われます。

野田学園幼稚園 園長 見好 豊



絵本で親子のふれあいを — 読み聞かせのすばらしさについて —

赤ちゃんは胎内にいるときから、お母さんの声やイントネーションを聞き分けていると言われてます。言葉は分からなくても、お母さんの声を聞くことと安心します。この時期、お母さんからの語りかけがとても大切です。絵本があれば、この語りかけも豊かになります。



子どもの発達を支える家族と 支援者の役割

— 子どもの発達に関すること —

家族の一員として生まれてきた大切な命は、親の愛に包まれながら、個々の発達の道筋をたどりながら成長していきます。しかし、「歩くのがおそい」「ことばがでない」など発達に気になる部分があると親の不安は高まります。そんなとき、家族を支える人の存在が必要不可欠です。その人の存在は、家族が子どもと共に生きるための力を与えてくれるのです。他の子どもと比べたり、焦ったりする気持ちは誰もが持つものです。支えてくれる人の力も借りながら、目の前の我が子ありのままに受け容れることや課題に向き合うための方法を考えることが大切だと思います。

支援者も障がいや発達に関する理解に努め、支援の輪が広がることを願っています。

山口県立大学社会福祉学部 准教授
臨床発達心理士 藤田 久美



遊びの大切さについて

— 子どもにとっての遊びについて —

赤ちゃんが自分の手を動かしたり指をなめたりする行動から「あそび」は始まります。子どもは遊びにより身体機能発達させていきます。友達と遊ぶ事により、言語を習得し、友達の気持ち、そして自分の気持ちに気づき、競い合い、ぶつかり合いながら、待つことの大切さ・順番のルール・自制する心へとつながっていきます。集団あそび・ごっこあそびでは、模倣することにより遊びながら、言葉・数・時間・空間等々を獲得し、そして集団の中の自分を知り健やかな心身の発達へと繋がります。

幼い時から早期教育に走る昨今の話を聞くと胸が痛みます。子どもは、のびのびといっぱい遊ぶことにより、健やかな発達を促し、次の世界に挑戦する知力・体力・精神力を獲得していきます。がんばりましょう。

日丸保育園 園長 秋田 安世



児童期～思春期 家庭教育が子どもの自立する力を培います

自立に向けて歩む青少年の育成を

子どもは成長するにつれ、この地域社会や大きな集団の中で、多様な関係を結ぶようになります。こうした時期に入れば、自分でできることはできるだけ自分の力で行おうとする姿勢が、その子にいいよ必要とされます。人は誰でも、周囲からの有形無形の支えのお陰で生活しております。しかしそうした中であっても、自らの持てる力を精一杯出そうとする姿勢が求められることは言うまでもありません。支えられていることに感謝しつつ、自らも精一杯努力する姿勢を培うことが、その人の自立を促すと私は考えます。

自立には、基本的な生活習慣に関する自立もあれば、経済的な自立もあります。さらには、自らの可能性を追求していくという人格的な自立も含めることができます。こうしたいくつかの自立は、それぞれが独立したものではなく、互いに深く関連しあっています。例えば、基本的な生活習慣は衣食住の内容を中心としますので、この面での自立はその後の人生をしっかり支えます。それゆえ、経済的な自立への指向にも良い影響を与えることが期待されます。自立に向けて歩もうとする青少年は、将来、良き父親と母親になれることでしょう。

山口大学教育学部 教授 松田 信夫

「食」は人を元気にしてくれます — 基本的な生活習慣の大切さについて —

成長期の子どもたちは、「食べる」ことが大好きです。「食べる」ことによって心も身体も安定してきます。

しかし、保健室に来る子どもたちの中には、エネルギー不足によって腹痛を訴えるなどの「朝食前の腹ペコ病」も多く見られます。

お子様はどうですか？「朝ごはん」をたっぷり食べていますか？

朝ごはんをたっぷり食べることで、脳が活性化され、子どもたちのいきいきとした1日が始まります。

「さあ～今日からスタートです！」もう一度「食」について見直してみませんか！！

萩市立むつみ小学校 養護教諭 寺田 悦子

愛されて子どもは育つんです — 家庭学習の効果上げるために —

家庭学習の効果あげるには、やる気のある活力ある子どもを育てることで、活力を育てるポイントは二つ。朝自分で起きることができるようになること、家の仕事の役割を与えることです。その上で、できたことを褒めつつ、悪いことは悪いと叱り、評価しつつ課題を与えます。その際、いかにたくさん自己決定させ、見直しを持って行動させる

かが重要です。可能性への自信を持たせながら、激励と援助を送り、自立させていくのです。テレビとたたかわせ、学習時間を確保することも大事です。

山口市立宮野小学校 校長 永 久 眞知子

読書の楽しさ・大切さ — 本が与えてくれる生きる力について —

言葉を獲得すると、子どもの世界は急速に広がっていきます。言葉によって、知る喜びを味わい、知識が増えていきます。また、身の回りの世界や自分自身の生き方などについて考えるようになります。その時、大切なものが読む力です。読む力は、世界の複雑さを知り、よりよく生きていく上で欠かせないものです。本の中には、先人たちの知恵やメッセージがたくさん詰まっています。読書は、喜びであるとともに、成長する過程で壁にぶつかった時、乗り越えていく力を与え、他人を思いやる想像力を培い、人生を豊かに支えてくれます。子ども読書支援センター 山本 安彦

メディアと上手につきあう方法 — メディアとの接し方や有害情報への対策 —

携帯電話・パソコンは役立つ道具である一方で、危険にさらす道具にもなります。成長にあわせて注意したいものです。小学校低学年の頃には、テレビは子どもといっしょに見て

話し合う。ゲームはルールを。パソコンはフィルタリングソフトの導入を。小学校高学年から中学生では、ゲームソフトを選ぶ際はCERO(※)を参考に。携帯電話は目的をしっかりと話し合い、自己防衛の仕方を教えましょう。子どもにとって良い番組はいっしょに見てコミュニケーションを深めましょう。

※特別非営利活動法人 コンピュータエンターテインメントレーティング機構
フリーディレクター 城 菊子

親としてできること — 子どもの自主性を育てるために 親として大切なこと —

子育てはまさに子どもとの我慢比べ。手を出さず、口を挟まず、辛抱して見守りながら、いざという時にはそっと背中を押してやれるようになりたいものです。

性分や個人差はあると思いますが、それでも子どもたちは目的や目標をもった時には思わぬ自主性(やる気)を発揮してくれます。その目的や目標となりうる選択肢を増やし、より多くのチャンスにふれさせてやることで、唯一私たち親にできることではないでしょうか。子どもたちが興味を持った時はいつでも情報を取り出せるよう、私たち親も視野を広げ、知識を積み上げる努力が必要だと思います。

山口県PTA連合会 副会長 吉 廣 幸 江

学習機会への参加は親育ちの場です — 学習機会への参加について —

地域で子育てに関する学習機会の場が設けられていますが、子育てに関心の低い親や孤立傾向にある親の参加が少ないことが課題となっています。こうした親も含め、同じ年頃の子どもを持つ親同士が誘いあって参加することで、学習効果の高まりや子育ての仲間づくりの輪が広がることを期待できます。また、PTAや子育てサークルといった民間団体や、子育てサポーター等の支援者による学習機会の情報発信もきめ細やかな家庭教育支援になります。

教育庁社会教育・文化財課

地域の中で育つ子どもたち — 子ども会活動等、地域行事への参加について —

車の往来のある道です。

上級生が下級生の手をひきます。「あぶないよ」ぼつんと1人で居る子がいます。

お兄ちゃんが声を掛けます。「おいでよ」

思いやり、協調性、自ら行動する力を養うためには、多くの人との関わりや体験が必要です。子ども会活動では、異年齢の子ども同士遊び集団として、地域の大人とも関わりをもちます。個々の関わりだけでは培えない社会性が集団遊びの中で自然と養われ、家族以外の人から叱られ、褒められ、頼りにされる経験は子どもの成長に欠かせないものです。

子どもたちの活動を家族がサポートし、地域の行事に積極的に参加することは、子ども自身が地域の一員であることの自覚をもち、子どもの自立する力にもなると考えます。

山口県子ども会連合会 松 橋 美恵子

飲酒・喫煙の指導は親のモラル — 子どもの飲酒・喫煙に対する 親の姿勢について —

20歳未満の喫煙・飲酒は、法律で禁止されています。20歳を過ぎてから自分で判断して行動できるように、指導することが必要です。「見つからなければいいや」という気持ちよりも、「いけないことだからいけない」と判断できるように、日頃から大人が決まりを守る姿を子どもに見せておく必要があります。子は親の背中を見て育つと言われます。親としてのモラルも問われているのです。

教育庁社会教育・文化財課

自立に向けて — 家庭や地域におけるキャリア育成について —

家庭・学校・地域が連携し、小学校の早い段階から、発達段階に応じて、子どもたちが「自らの生き方について考え、社会人として自立していく」ために必要な意欲・態度や能力の育成を図ることが大切です。家庭や地域での子どもたちの交流の場を増やし、社会の出来事や、仕事の実際の様子、将来の目標や夢を語り合う場を積極的に持つことで、子どもたちが「自分の責任で人生を切り開く」ことが期待されます。

教育庁社会教育・文化財課

